

サレビア

特集…血液腫瘍センターはどんなところ？
小児血液疾患センターの紹介

Vol.
29



(血液内科・小児科スタッフ)

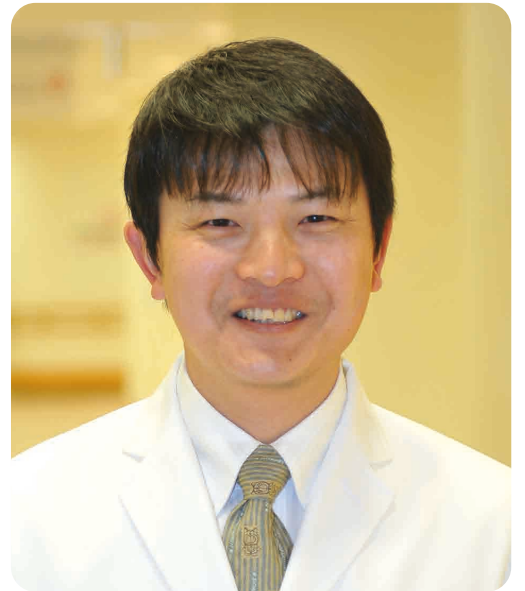


FEATURE
特集

血液腫瘍センターは どんなところ？

血液疾患のスペシャリストとして、
一人ひとりに合った治療選択をご提示しています。

白血病を中心とした血液悪性疾患は、生活習慣とは関係なく突然発症することが多く、初診時には大きな驚きと不安に襲われる患者さんがほとんどです。そのような状況の中、我々は、血液疾患のスペシャリストとして、患者さんやご家族の気持ちに寄り添うわかりやすい病状説明を心がけ、豊富な経験と最新の知識で、個々にあった治療選択をご提示しています。血液疾患は全身が関わる領域であり、様々な部門・機関との連携が重要なため、当院では「血液腫瘍センター」を設置し、院内・院外連携を行っています。特に小児血液疾患部門と緊密な連携をとり、AYA世代（15～39歳）の患者さんに対応し、さらに造血幹細胞移植推進地域拠点病院として岐阜県の血液診療を共に支えています。

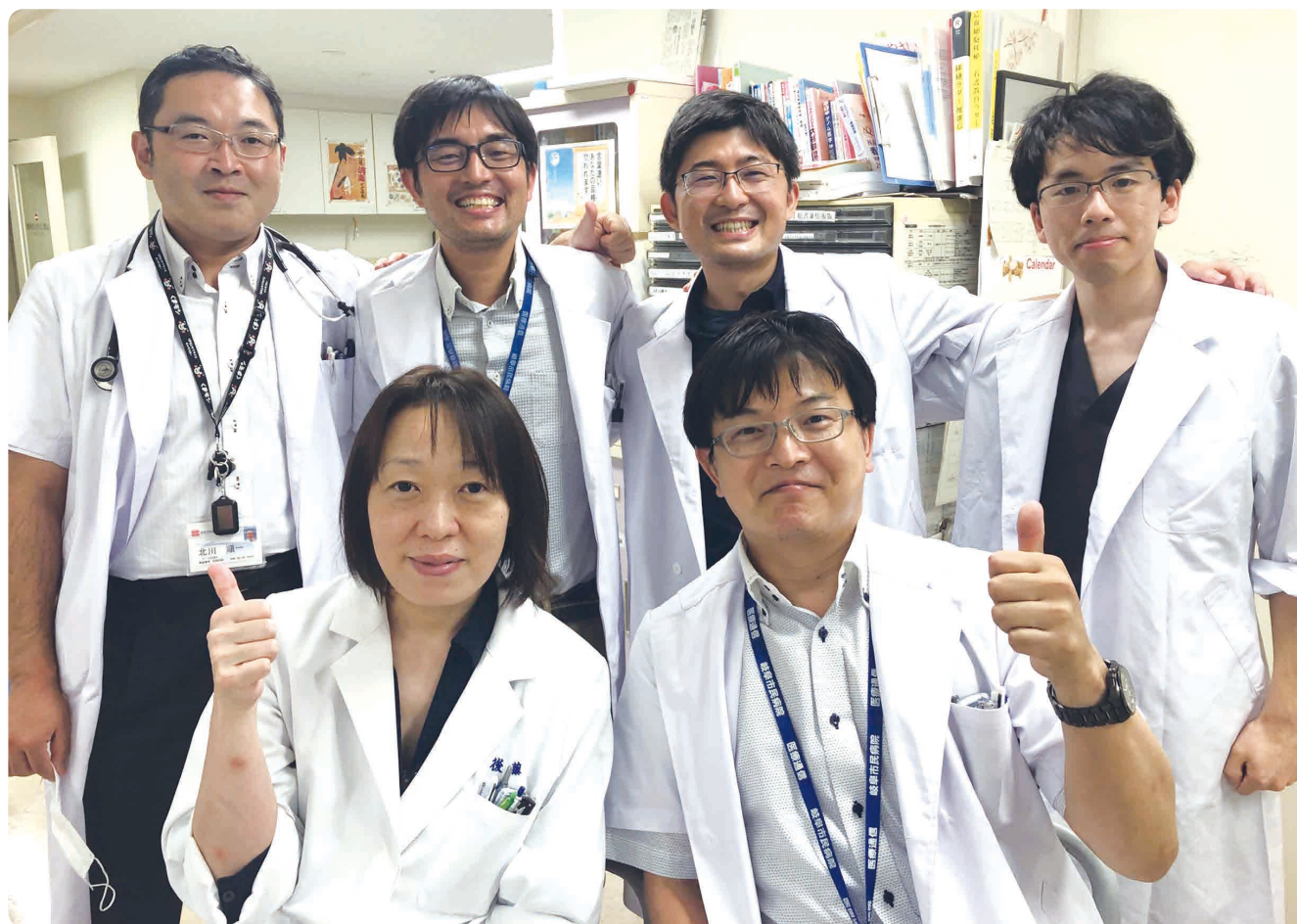


血液内科

かさはら せんじ
笠原 千嗣



患者さんがご高齢、合併症などで強力な化学療法を受けることが困難でも、新薬の積極的導入などにより、元気な状態を保つことができるようになっていきます。緊急時は、救急部、重症部門などの協力体制の下、24時間365日対応しています。近隣のみならず遠方の多くの先生方からも患者さんをご紹介いただいております。検査設備を充実しつつ、初診から診断までを迅速に行い、治療につなげることを心がけています。



(血液内科スタッフ)





小児血液疾患センターの紹介

小児血液疾患センターでは、年間10人から15人程度の白血病・悪性リンパ腫・神経芽細胞腫などの小児悪性疾患の診療を行っています。高山や長浜など遠方からの紹介も多く、岐阜県内やその近隣地域における血液疾患・小児がん診療の中心を担っています。

当センターでは、看護師・薬剤師・専任リハビリスタッフ・院内学校の教諭・小児緩和チーム・心理士・栄養士など多職種との連携を大切にしており、他施設と比較して大きな特徴となっています。



小児科

しのだ くにひろ
篠田 邦大





抗がん剤の多剤併用療法や骨髄移植などの集中的治療は半年以上の長期におよぶ場合が多く、入院中のADLの維持や心理的ケアに加えて、入院中の教育や退院後の復学支援などにも力を注いでいます。小児がんは8割以上が治る時代になり、多くの子どもたちが元

気に退院していく中で、退院後も社会で活躍できる立派な大人に成長できる環境づくりが大切と考えています。小児がん経験者の中には、看護師や薬剤師、医師などを目指す人が非常に多く、長期にわたる小児がん治療の経験を通して、多くの事を学んでくれていると日々感じています。



造血細胞移植コーディネーター(HCTC)とは



患者・家族、ドナーさんにとって 安全な移植が行えるよう日々努力していきます。

造血細胞移植コーディネーター(HCTC)とは、「造血細胞移植が行われる過程の中で、ドナーの善意をいかしつつ、移植医療関係者や関連機関との円滑な調整を行うとともに、患者・ドナー及びそれぞれの家族の支援を行い、倫理性の担保、リスクマネジメントにも貢献する専門職」と定義されています。

小児分野においては特に年少の同胞がドナー候補となる事が多いため、HLA検査の実施時より、倫理的観点から十分に時間をかけ、ご家族と話し合う事を心がけています。

小児移植医療チームの一員として、患者・家族、ドナーさんにとって安全な移植が行えるよう日々努力していきます。



おがね じょうじ
小児造血細胞移植コーディネーター 小川 丈二

HCTCは造血幹細胞移植全体を支えていく仕事です。

HCTCは患者さんが“移植を行う可能性がある”と判断された時から介入が始まります。患者さんやご家族に移植についての流れや費用、移植のメリットとデメリット等を説明し、移植をするかしないかの最初の意思決定を支援します。そして、身体的・精神的・社会的な背景をふまえて、移植がスムーズに行えるようサポートを行います。また、血縁ドナー候補者へは、プレッシャーとならないよう中立的な立場でかわり、その家族も含めた支援を行います。

HCTCの業務内容には、バンクとのFAXでのやりとりや、書類作りなど事務的な作業も多く含まれています。看護師とは違った形で移植全体を支えていく大変な仕事ですが、その分やりがいも大きい仕事です。



ふるた みほこ
造血細胞移植コーディネーター 古田 美保子

お知らせ - Information -

医師紹介

若手心臓血管外科医として

心臓血管外科では40歳未満は若手と呼ばれます。下肢静脈瘤から心臓・大血管までの幅広い分野の手術を行い、時として困難な症例に向き合うこともあります。ひとりの医師のちからでは全うすることはできません。しかし、心臓血管外科指導医をはじめ多分野の医師、手術室、集中治療室、病棟の多くの看護師、薬剤師、臨床工学技士や理学・作業療法士、その他多くのスタッフとともにチームとして日々診療にあたっています。

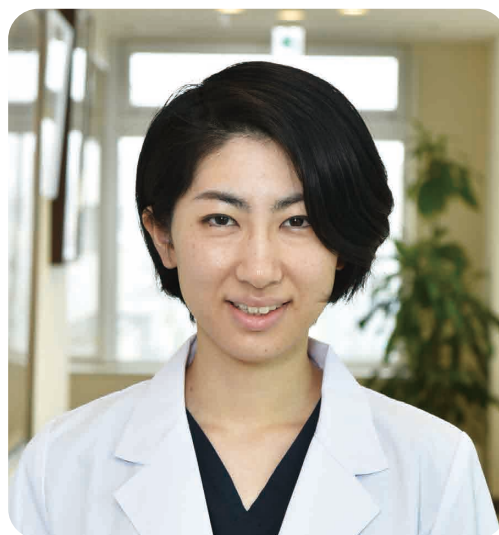


胸部・心臓血管外科

きまた りゅうたろう
木股 竜太郎

近年は、関節リウマチ治療が飛躍的に進歩しています。

当科では原因不明の病態からcommon diseaseまで幅広く対応しており、また、様々な自己免疫疾患などの診断・治療を行っております。特に近年は、関節リウマチ治療が飛躍的に進歩しており、関節エコーを用いて早期診断・治療介入することで関節破壊や変形を予防できるようになってきています。何かございましたら、ご連絡いただけますと幸いです。



総合診療・膠原病内科

たんぎく まりこ
丹菊 真理子


「AI問診UBie(ユビー)」を導入しました

事前Web問診

診察の充実化のため、
事前問診にご協力ください

- ・ 回答時間3～5分
- ・ PC又はスマホから回答可



岐阜市民病院では令和2年10月より一部診療科を対象に「AI問診UBie(ユビー)」を導入致しました。「AI問診UBie」とは約5万件の論文から抽出されたデータと、実際に使用している全国の医療機関からのフィードバックに基づき、AIが患者さん一人ひとりの症状や地域・年代に合わせた質問を自動で作成し、分析するシステムです。患者さんがタブレット画面に表示される

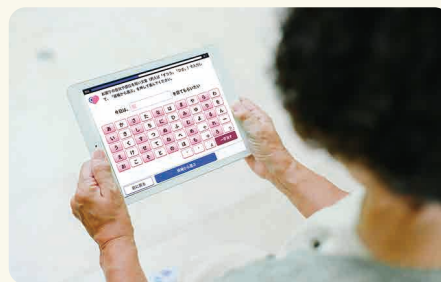
質問に沿って回答を選択すると、AIが電子カルテに記載する問診、所見を自動で作成します。

「AI問診UBie」の導入により、従来の画一的な紙問診による限られた情報に比べ、より詳しく患者さんの状態や症状を把握できるようになります。加えて、これらの事前問診情報を医療の専門用語に変換・翻訳された形で即時に電子カルテに記録することが可能です。さらには、紹介状やお薬手帳のOCRスキャンにより、紹介内容や服薬履歴も自動で電子カルテに反映されます。これらの機能により外来初診にかかる事務作業を大幅に効率化でき、患者さんと直接向き合う時間に当てることが可能で、患者さんの満足度向上も期待されます。

また、患者さんのスマートフォンを使用した来院前問診にも対応しており、予め自宅で問診内容を入力してから来院していただくことで、患者さんの待ち時間の削減のみならず、在院時間が減ることによる感染対策効果も期待できます。

次年度にかけて順次導入診療科を拡大してまいりますので、当院に患者さんをご紹介します時には、スマートフォンをご利用の患者さんであれば、ぜひ事前問診をお薦めいただければ幸いです。

予定対象診療科：循環器内科、腎臓内科、消化器内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、総合診療・膠原病内科、神経内科、救急診療部



アクセスは
こちらから



オンライン会議対応しています！

コロナウイルスの感染拡大により、自院以外での会議やカンファレンスの開催が難しくなっておりましたが、当院ではオンライン会議専用PCが整い対応可能となっております。詳しくは各担当までお気軽にお尋ねください。

